

(様式第4号)

第1回上田右岸地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田右岸地域協議会
2 日時	令和5年4月24日 午後1時30分から
3 会場	豊殿地域自治センター 多目的ホール
4 出席者	天田委員、上原委員、永本委員、大宮委員、小川委員、金井委員、小林正人委員、小林みゆき委員、駒崎委員、清水悟委員、清水万貴委員、竹内委員、橋詰委員、宮下委員、柳澤委員
5 市側出席者	【事務局】星野中央地域振興政策幹、木嶋西部地域振興政策幹、横澤豊殿地域自治センター長、馬場地域振興政策幹、竹花地域内分権推進担当係長、近藤地域内分権推進担当主査、唐澤地域内分権推進担当主査、腰原地域内分権推進担当主査、芳池地域内分権推進担当主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年4月25日

協議事項等

次第

- 1 開会
- 2 委員・事務局自己紹介
- 3 会長あいさつ
- 4 協議事項

(1)分科会に分かれて調査・研究

上田右岸地域の課題について

分科会ごとに分かれて意見交換

【第1分科会:教育・福祉・子育てについて】

調査研究テーマについて協議

《移動支援について》

○事務局から意見交換のテーマとして「住民主体の移動支援で、足りないものは何なのか」を提示

○豊殿地区で移動支援に関与している委員からの意見

・1世帯あたり年間1,000円の負担金と市補助金で運営している。神科、神川地区で同様の負担は困難、課題は車や任意保険の個人名義の使用、運転手の確保、医療機関等の数の違いなど地域の特性の違い。

・オレンジバスにほとんど人が乗っていない、細い道にも入っていける小さい車両でよい。

・15人程のボランティアで開始しようという自治会事例がある。

・リーダー的な人材の確保が一番の課題である。

・長野市旭地区は社会福祉協議会の車を使用している。安茂里の小市は個人所有で、病院2ヶ所に限定しており、1回500円を徴収している。

○個人ボランティアで買い物や医療機関への送迎をしている委員から、行先を病院に限定しているとの報告

○他の委員からの意見

・移動支援に関わらず、自治会での支援マップを作成しても、高齢化が進んでいて現実的には支援にならない。隣組長は若い人もおり昼間は居ない。定年が伸びて役員のみなり手がいない。

・免許返納者に対する1万円のタクシー券では1年ももたない。身内にも頼みづらいという方が結構いる。バスでは希望の場所に希望の時間で行かれない。買い物は荷物も多くなる。一人のボランティアでは限界がある。

・ファミリーサポートの大人版としてサポーターとのマッチングができれば、毎週決まった時間と場所なら30分300円程度でサポートしてくれる人もいるのではないかと。

○事務局から

・長野市の住民自治協議会は自治会連合会、民生児童協議会など行政の縦割りの交付金を一括化した窓口である。

・法人格が無ければ車も任意保険も個人名義となる。NPO 法人なら法人名義も可能だが、(会計基準など)事務的なハードルが高くなる。住民自治組織は認可地縁組織として法人化はできない。

・大きな自治会になると移動支援の組織は自治会とは別の特定目的を持った組織でないと厳しい。

《不登校への支援、子どもの居場所について》

・キャンプ事業は各学校で子どもたち自身に、「虐待されている人は大人に相談してもらおう」というものなので広めてほしい。学校の授業に取り入れることは、事前にカリキュラムが決まっているため難しかった。保育園では受けてもらえることもある。

・依頼があった小学校で2時間、保育園だと3日間、ロールプレイで子どもがどうしたら自分をいじめや虐待から防ぐかということを教えている。子どもたちに一緒に劇をしてもらうためのシナリオは全国にあるキャンプ組織で作っている。子ども自身が逃げたり、嫌と言えること、人に話す、自分で抱え込まないで相談することを教えていく。各学校でも取り入れてほしい。

・合同庁舎で、子どもプラットフォームという県のボランティア団体を集約して発信しようということを行っている。小さい団体や、私みたいに個人でやっている人も登録している。

・子供食堂といっても週1回、イベント的に月1回開催などが多い。月1回土曜日や日曜日に開催しているところは、不登校の居場所にはならない。

・平日の居場所としては上田映劇も該当する。

・市からの助成金制度もある。大学生や高校生も学習支援に来る。いくつか居場所として認めてもらわないと意味がない。

・学校側と不登校の子どもたちと連携を取りたいが、学校によって対応が異なる。発達障害の関係では丸子中央病院と信州医療センターからの紹介で来ている子どももいる。

【第2分科会：公共施設・事業について】

調査研究テーマについて協議

4月20日塩尻市視察の感想や意見を出し合う

<塩尻市図書館>

・市民の方と協働で建設していた。

・従来の図書館と比較し、発想の転換が見られた図書館だった。

・点字図書館との複合施設としての図書館建設は考えられないか。

・長い期間をかけて市民の意見を聞いて建設したことがわかった。

・蔵書が多い。

・講演会を企画し、素晴らしい人を講師として招いている。

・職員の発想がすごい。

・市街地の活性化に寄与している。

・機能的に素晴らしい施設である。

・核となる職員がいる。(館長が8年間従事している。)

・時間をかけて市民の声を聞いていることが素晴らしい。

・いろいろな情報を発信している。

・職員の熱意を感じた。強い信念を感じる。

<塩尻市総合体育館>

- ・指定管理者方式では、メリット、デメリットがあるように感じた。
- ・もう一つの体育館と使い分けしている感じがした。
- ・中途半端な大きさのように感じた。
- ・市も建設の際は十分研究して進めてはどうか。
- ・指定管理者という運営方法はどうか、十分検討した方がよい。
- ・どういう人をターゲットにしているか不明。中途半端な施設だと感じた。
- ・指定管理者の運営方法で、指定管理料1億円が高いのか、安いかわからない。
- ・設備は十分であると感じた。
- ・複合施設としての建設は考えられないか。
- ・避難場所としての機能も併せ持っていることはよい。

【第3分科会：建設・産業について】

調査研究テーマについて協議

交通政策課から令和3年度に行なわれた「バス利用実態調査」、「公共交通に対する意識要望アンケート」についての結果分析について説明を受ける。また、「上田市地域公共交通計画」の策定の進捗状況についても説明を受ける。

以下、委員からの主な意見

- ・公共交通の対象者を「観光客」にするのか「生活者」にするのかでもかなり違ってくる。
- ・バスの運行時間や料金がわかりづらい。
- ・利用者の要望も、「通勤通学」、「高齢者」、「子育て世代」でも違いがある。
- ・乗り継ぎを考えたダイヤになっていない。
- ・「上田市地域公共交通計画」の策定に意見を反映させることは可能か。

5 その他

次回

日時 5月15日(月) 午後1時30分～

場所 中央公民館

6 閉会